

狐にまつわる 神々



いあいさつ

本展は、七年に一度の盛儀である善光寺前立本尊御開帳に合
わせて、善光寺の裏山ともいべき飯繩（飯綱）山の信仰に焦
点を当てます。飯繩山は、中世には山岳修験の霊場として飯繩
権現を生み出し、善光寺と一体となった信仰も見られます。

くちばしと翼を持ち、狐に乗る怪異な姿はどのように生まれ
たのか。中世に様々な神仏を結びつけた狐の足跡をたどりなが
ら、飯繩権現の秘密にせまります。さて、狐火は我々をどこへ
導いていくのか……。

本展の開催にあたり、趣旨にご賛同いただき貴重な宝物を出
陳してくださいました各所蔵家の皆様に心から御礼申し上げます
とともに、ご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表
します。

平成二十七年四月

長野市立博物館

目次

「あいさつ」	1
〔図版〕	
第一部 飯縄権現の姿	3
第二部 狐がとりまく異形の神々	13
総説 狐にまつわる神々	46
作品解説	53
参考文献	62
謝辞	63

凡例

- この図録は、平成二十七年四月二十五日から五月三十一日まで、長野市立博物館で開催される「狐にまつわる神々」の図録である。なお、飯縄信仰については、同期間に当館で開催される「信仰のみち―善光寺・戸隠・飯縄・小菅・斑尾・妙高―」の図録も参照されたい。
- 図版の作品番号は陳列番号と一致するが、陳列の順序とは必ずしも一致しない。
- 作品保全のため、図録に掲載された作品が会場に陳列されない場合がある。また随時展示替えを行う。
- 各作品解説の当初に付した作品データは、番号、指定、名称、作者・筆者、員数、時代、材質形状、法量（単位はcm）、所蔵者の順に記した。
- 日本の時代区分は次のようにした。
 - 鎌倉時代（一一八五～一三三二）
 - 南北朝時代（一三三三～一三九二）
 - 室町時代（一三九二～一五七二）
 - 桃山時代（一五七三～一六一四）
 - 江戸時代（一六一五～一八六七）
- 本書掲載写真は、ご所蔵者から借用した写真の他に、次の個人並びに機関よりご提供いただいた。
 - 滋賀県立安土城考古博物館（No. 3、4、34、39、40）、神奈川県立金沢文庫（No. 13～19）、滋賀県立琵琶湖文化館（No. 24）、高野山霊宝館（No. 26、27、32、38）、真田宝物館（No. 29）、奈良国立博物館（撮影 森村欣司、No. 30）、サントリー美術館（参考3）、株式会社便利堂（参考4）
- また本書掲載写真は一部、高久良一氏に撮影を委託した。
- 本展の企画及び図録の編集・執筆は竹下多美が行い、描きおこし図は百瀬志帆、表紙デザインは大山登紀子が行った。その他全般に館員が補助した。
- 関連事業として、五月十日に神奈川県立金沢文庫学芸課長 西岡芳文氏による「ダキニ法とイツナ法」と題する講演会を行った。